

明治時代の経済(1)

戦前の経済史の鉄則

輸出の二本柱・・・絹(生糸・絹織物(羽二重)・・・)と木綿(綿織物と綿糸) /幕末は茶

工業の発展・・・小規模な手工業→単純な機械の使用→大規模な機械工業

輸入品・・・工業製品(綿織物・毛織物・綿糸・武器)

→半製品(綿糸・機械) →原料・食料(綿花・鉄・米)+機械

1.殖産興業期 1868～1880ごろ 明治 一ケタ台

①明治政府の基本方針としての[1 富国強兵]

内容・・・列強の圧力を受ける中で日本の自立を図るため、経済力と軍事力を強化すべきだ

②[2 殖産興業]・・・明治政府によって進められた産業育成政策

ア)経済活動の前提の整備・・・経済活動の障害となる封建的諸制度の撤廃

→関所・助郷役、株仲間による営業独占、身分制による制限など

イ)外国の産業や制度の導入=[3 お雇い外国人]の採用・留学生の派遣

ウ)官営事業の整備←旧幕府や藩営の事業の継承([4 横須賀造船所]・鉱山・炭鉱など)

エ)交通・通信制度の整備

鉄道建設(1872 東京・横浜間、神戸・大阪・京都間、1889 官営東海道線開通)、工部省主導

海運業の育成・・・[5 三菱]会社の設立([6 岩崎弥太郎]ら)→現、[7 日本郵船]

[8 郵便]制度(前島密の建議)、電信線の整備

③工部省→[9 内務]省主導で「上からの産業育成」をすすめる

ア)輸出産業([10 製糸]業など)と輸入赤字を軽減できる産業([11 綿紡績]業・[12 綿織物]業)の育成

をめざす。→[13 官営模範]工場の建設([14 富岡製糸場]など)

イ)[15 軍需]工業の育成=砲兵工廠・[16 横須賀造船所]の建設など

④貨幣制度の整備・・・1871 [17 新貨]条例(円・銭・厘の10進法による)

↓

1872[18 国立銀行]条例・・・民間での兌換紙幣発行をめざす→第一国立銀行([19 渋沢栄一]ら)など

2. 松方デフレ期 明治10年代

①明治10年代初頭の経済=[20 インフレーション]の激化

←[21 西南戦争]の戦費の支出・国立銀行法の改正=大量の[22 不換紙幣](西郷符)発行

→国立銀行の不換紙幣発行、可能に

税込の[23 実質減]=財政困難・貿易の障害に→財政再建・紙幣の整理の必要に迫られる

②1881 大蔵卿に[24 松方正義]就任

松方財政=超均衡財政(歳入>歳出)による正貨の蓄積 → 銀兌換制度の確立へ

ア)歳入増=大幅な増税・・・[25 酒造]税や煙草税など[26 間接]税を増やす

イ)歳入削減=[27 官営工場の払い下げ]をすすめる(1880～)

→[28 政商]らに優良[29 鉱山]や官営工場などを払い下げる→[30 財閥]の形成へ

高島炭鉱・長崎造船所([31 三菱])、三池炭鉱(三井)、[32 足尾銅山](古河)

→鉱毒事件を起こす(田中正造ら抵抗)

ウ)他方で[33 軍事費]を増やす

③1882 [34 日本]銀行の設立

→銀行券発行権を一元化、[35 銀兌換]紙幣を発行([36 銀]本位制度の実施)

※兌換紙幣=いつでも同額の金貨、または銀貨と交換できる紙幣。その国が所有する貴金属の量に応じてしか紙幣を発行できない。→国際的信頼度は[37 高い]。

不換紙幣=貴金属の所有高にかかわらず紙幣を発行。[38 インフレ]になりやすく、信頼度は低い。

④[39 寄生地主]の登場・・・松方デフレによる自作農民の没落=大地主による土地集積→耕作から遊離

※寄生地主・・・自らは農業をあまり経営せず、土地を貸して高額の[40 小作料]を得る地主

→資金を[41 鉄道]や[42 株式]に出資

→[43 地方名望家]として地方・中央政界に進出

3. 産業革命期 明治20～40年代

①松方財政=[44 銀本位]制確立=1880年代後半以降、貿易の活発化(輸出超過に)・物価の安定

→産業の活発化すすむ

②日本における[45 産業革命]の開始

・1886～89 紡績・鉄道分野中心に[46 会社設立ブーム]発生=民間資本の発達

・機械(←[47 欧米からの輸入]がおおい)生産の本格的な使用開始

③日清戦争の勝利→大量の[48 賠償金]の獲得

ア)軍備拡張→[49 軍需]産業・重工業の育成をめざす→[50 製鉄]業、造船業など育成

三菱長崎造船所の成長

1901 官営[51 八幡製鉄所]設立(中国・大冶鉄山の鉄を輸入)設立

イ)[52 金本位]制の確立・・・貨幣価値の安定、貿易の活発化

グローバルスタンダードに

ウ)産業への大量に資金提供→製糸業や綿紡績業での機械化、工場規模の拡大進む

④[53 輸入]超過型の貿易構造

輸入・・・[54 綿花]などの原料品、[55 機械]や[56 鉄]などの重工業製品、軍需物資

明治時代の経済(2)

3. 産業革命期 a. 工業の発展

① 木綿工業の台頭

綿織物業の回復 = 1 輸入綿糸 利用・飛び梭の手織機を使用した 2 農村工業 の発達



綿織物の発展 = 綿糸への需要拡大 → ガラ紡 (臥雲辰致が発明) や手紡ぎ
→ 1883 [3 大阪紡績会社] 設立 = 機械制・大規模生産の開始



綿糸・・・1890輸入超過から [4 輸出超過] へ → [5 中国] [6 朝鮮] への輸出増



日露戦争後 [7 自動織機] による綿織物業の発展 → 大型織機による大工場
小型国産織機 (豊田自動織機など) → 農村での [8 小工場] 設立

② [9 製糸] 業・絹織物業・・・欧米向け [10 輸出] 産業の中心
[11 手動] の座繰製糸 → [12 器械製糸] の小工場に → 1909世界最大の生糸輸入国に

③ 民間鉄道の設立 → [13 華族]、さらに地主・商人らによる鉄道会社設立ブームに
1881 日本鉄道会社 1889 官営東海道線全通

④ 日露戦争後

ア) 1906 鉄道国有化令 主要幹線の民間鉄道を買収し国有化 → 民間資金の増加

イ) 重工業 ([14 製鉄業]、軍需産業) の発達

官営八幡製鉄所の生産軌道に、造船 (三菱長崎造船所)・機械工業 (池貝製作所) も一定の水準に

ウ) 繊維業の発展

綿紡績業 = 大企業による独占的生産 → [15 海外市場] を求め、朝鮮や満州に進出
→ 中国市場などでの [16 アメリカ・イギリス] との対立激化

製糸業 → [17 アメリカ] 市場が中心、輸出規模は世界最高に

エ) [18 財閥] の巨大化 → 経営の多角化 = [19 コンツェルン] 形態をとる
株式所有を通してさまざまな分野の企業を支配

戦前の日本経済の基本的特徴

ア) [20 軍需] 産業部門 (製鉄業や造船業を含む)
と輸出関連部門 ([21 製糸] 業と [22 綿紡績] 業) のみ発達
→ 対アメリカ → 対アジア

その他の産業 (機械業など) の未発達

イ) [23 寄生地主] 制のもとでの高額 [24 小作料] → 農民は農業収入のみでは生活ができない
→ 家計補充のため、25 低賃金・無権利の工場労働力 (特に女子) を放出

・・・二交代制の昼夜業 (紡績業)・15時間～18時間労働 (製糸業)、賃金前貸、寄宿舍制度

ウ) 安価な労働力を利用して、[26 安価な工業製品] を生産 → 大量に輸出

エ) 高額小作料・低賃金労働 → [27 国内市場の狭さ] = 強引に [28 輸出] 市場拡大をめざす
→ 日本資本主義の軍国主義的性格

b. 社会運動の発生

① 産業革命の進展 → [29 賃金労働者] の増加 [30 繊維] 業が中心
[31 女子] 労働者が中心、男子労働者は [32 鉱山業] や [33 運輸業] が中心。
[34 重工場の熟練労働者] は少ない

② 待遇改善や賃金値上げを求める声の高まり → 工場労働者による [35 ストライキ] の発生など
1897 [36 労働組合期成会] ([37 高野房太郎]、片山潜ら ← [38 アメリカ] の影響を受ける)
キリスト教徒がおおい
熟練工を中心に [39 鉄工組合] や [40 日本鉄道矯正会] などの労働組合が結成される。

③ [41 足尾鉍毒] 事件の発生 → [42 田中正造] を中心に反公害運動をすすめる

④ 政府 1900年 [43 治安警察] 法を制定 ([44 山県] 内閣) = 団結権・ストライキ権を制限
[45 工場] 法制定の動き = 労働者の保護をめざし、少年・女性の労働を制限などをめざす
→ 資本家の反対のため、[46 1911] 年制定 → [47 1916] 年実施
不徹底な内容

③ 1898 [48 社会主義研究会] 結成 (安部磯雄・片山潜・幸徳秋水ら)
→ 1901 [49 社会民主] 党結成 (← 政府により即日解散)

④ 反戦・非戦運動 = 幸徳・堺利彦ら平民社を結成、[50 平民] 新聞発刊
→ [51 日露] 戦争反対を強く主張、反戦論を主張

⑤ 1906 [52 日本社会党] 党結成 → 翌年、解散命令へ
西園寺内閣 ↓

⑥ 1910 [53 大逆] 事件で、社会主義者らへの大弾圧、幸徳ら死刑に処せられる
→ 以後、「冬の時代」へ

4. 大戦景気と大衆文化の形成

① 第一次大戦 → 空前の好景気 = [1 不況] と [2 財政危機] の解決

② 輸出の好調 → 貿易は大幅な [3 輸出超過] …… 11億の [4 債務国] から 27億以上の [5 債権国] に
[6 アジア] 市場への大量の [7 綿織物]
[8 アメリカ] 市場への [9 生糸] の大量輸出
[10 船舶] 不足など → [11 造船業]、[12 海運業] 海運業の好況 (世界第3位の海運国に)
→ [13 船成金] ブーム

③ 重化学工業の発展
[14 鉄鋼] 業の発達 (八幡製鉄所の拡張・鞍山製鉄所)
[15 化学] 工業の勃興 (← ドイツからの輸入途絶)
[16 電化] の進展 …… 水力発電所建設・長距離送電 (猪苗代・東京間) の成功
→ 電灯の普及・工業動力の電化すすむ

④ 産業構造の変化 = 「 [17 農業] 国から [18 工業] 国へ」
工業労働者は戦前の [19 1.5] 倍に、男子労働者の倍増、[20 都市] 人口増加
他方での農村の停滞 (← [21 寄生地主制] が背景)